

市民と市長の対話集会

「つながるまち、小郡」を語ろう！

平成 30 年 9 月 27 日（木）
午後 7 時～午後 8 時 30 分
ふれあい館三国

○意見交換議事録

・災害時における避難行動要支援者対策について

・校区コミュニティセンターを活用した「認知症カフェ」の推進について

質問者 A： テレビで避難所が開設されたという情報が流れ、大刀洗と、基山か鳥栖の情報が出たが、小郡市の避難所が開設されていないのはなぜかと思った。

それと避難所が開設される時の鍵の管理は、市が一括で行っているが、災害時に市役所の職員がすぐに駆けつけられない場合もあると思う。例えば、鍵の予備を作り、地元の区長さんに預けるなど、そういうことも考えなくてはいけないと思う。

山下経営政策部長： 避難所の開設タイミングに関しては、各市町村で決めている。大刀洗、基山が開設した時間にずれはあるものの、小郡も開設はしている。

鍵については、防災担当が管理しており、避難所に行く職員に鍵を渡し、避難所要員として行ってもらうようになっている。避難所は公共施設であり、鍵の管理の責任も考慮した上で、現状は渡してはいない。なるべく職員が出向いて開設できるような現在の体制を、今後も行っていきたいと考えている。

見城副市長： 基山と鳥栖と小郡について話を補足すると、豪雨災害の警報は河川の水位上昇と、土砂災害を防ぐために、どのくらいの雨量によって斜面がどういう状態かを把握した上で気象庁が発表する。それに基づいて避難勧告を出したり、避難所を開設したり、判断をしていく。

基山では7月の豪雨で実際に土砂災害が発生し、家屋が一軒全壊した。基山は土砂災害の危険性が高い区域がたくさんある。雨が斜面にたまり、滑る危険性があると、気象庁が土砂災害警報を出す。そうすると基山や鳥栖は、避難所を開設するのだが、小郡は土砂災害の危険区域が一箇所のみでほとんどないため、結果的にそれよりも遅れて出ることになった。先に三国地区と希みが丘地区に避難所を出し、河川の水位が上がってからは、河川に関係するところに避難所を出した。判断基準はそのようになっている。なお、合鍵に関しては自助、公助の関係を組み立てていく中でも考えていきたいと思う。

質問者 B： 認知症カフェをコミュニティセンターで行っていくこととなれば、コミュニティセンターは常時習い事やイベントがあるので、使う時間や曜日が限られてくると思う。常時開設ではなく、週一の開設のようになるのか、お尋ねしたい。

有馬市民福祉部長： 三国カフェは、現在毎月第 2 火曜日に開設している。来年度以降も当面、開催のペースは変えずにやっていきたい。「ふれあい館三国」の利用率の高さは把握しており、サークル活動とかち合わないような曜日に設定するなど、工夫をして、活動に影響が出ないようにやっていきたい。

質問者 C： 各地区で避難訓練をしているようだが、三沢ではそういった訓練が一切ない。近所の方たちとのコミュニケーションをとれる場にもなるので、台風や地震に備えて、ぜひ区で行ってほしい。そのためにはどうしたらいいのか？

山下経営政策部長： 市内行政区で自主防災組織も立ち上がっているが、確かに区によって活動内容にバラつきがある。市としては、そういった活動の働きかけやサポートを行ってほしい。また、「防災リーダー講習」というのも実施しているので、自主防災組織の中核になる方に受けてもらい、参加してもらった方々を中心に、避難訓練などを行っていただきたいと考えている。

質問者 C： そういう活動があっていることも知らなかった。三沢区では、災害時に障がい者や車椅子の方たちを、誰がどういう風に誘導していくのかわからない。いざという時は、みんな自分のことで精一杯になりがちだから、それをどういう風にすればいいのか、事前にわかるようにしてもらいたい。

質問者 D： 70 歳以上の一人暮らしの高齢者と、75 歳以上の高齢者のみの世帯については、各校区に配置された民生委員が、市の委託を受けて調査をしている。要援護者として登録している方のお宅は、市内で約 2,700 近くあるが、障がい者や、妊婦の方は把握していない。いざ災害が起きた時にそういう人たちにどう手を差し伸べるかを、早く考えてもらわないといけない。民生委員も大変になるだろうが、まずは自主防災組織と早急に調整して、体制を整えてもらいたいと思う。

有馬市民福祉部長： 民生委員の意見交換会でもこの話題が出ている。支援を必要としている人がいるかという名簿は網羅できていないため、地図に落とし込むなど、把握をする必要があると思っている。まずは行政の方で、名簿を作る仕組みづくりを早急に考えていきたい。支援が必要な方のところへ助けに行くまでの訓練を、地域と市と一緒にやることができたらと思っている。そういう準備を整えば、お示しをしたい。

質問者 E： 先日、認知症カフェに行き、こういう場があるということを知りたい

と思ったが、もうちょっとみんなが楽しくできるゲームなどをしたらどうかと思う。それから「認知症カフェ」という名前を変えた方がいいのでは？皆さんで楽しくいられるように、名前を公募でもして、来年の4月から変えてみてはどうか。

有馬市民福祉部長： 認知症の方しか行けないのかという疑問の声もあるが、そうではない。2025年には65歳以上の方の5人に1人が認知症になるといわれており、予防の意味も込めてカフェを開催していて、実は今も名称は「三国カフェ」でやっている。ただ、ネーミング募集や活動内容で、いいアイデアをいただいた。今は楽しい雰囲気になってもらうために、お茶菓子を出したりしているが、もっとたくさんのボランティアが集まれば、ギター演奏や手品など、その方々の特技を活かした活動も行っていけたらと考えている。市をあげて、そういう輪も広げていきたいと思っている。

質問者 F： 避難所が足りない。被災地では行ったところで「断られた」という声も聞くので、各行政区の自治公民館を避難所にしてみてはどうだろうか。

質問者 G： 私も関連の質問がある。とくに高齢者は、避難所が近くにないと避難をしない。なるべく近くにそういう場が欲しい。横隈区の公民館は裏が崖になっており、危険の恐れがあると指定されているために使用していないが、実はそこを使いたいと思っている。避難所は、近くにあると一番いいので、何とか使えないかと思っていた。どうやったら使えるのか相談はできるのだろうか？市の避難所は、恐らくいっぱい入れないと思う。7月の豪雨では、民生委員が個別に相談してお寺を使った。何とか近くに欲しい。

見城副市長： 避難は段階があり、一番最初は避難情報が出る。“台風や地震の余波、あるいは豪雨、少し危険が迫っているので、避難準備をしてください。とくに高齢者の方は自主避難をしてください”という指示が、第一段階。いよいよ危険が迫ると避難勧告が出て、最後は行政から「必ず避難をしてください」という指示が出る。

去年名古屋で、名古屋市全世帯に避難指示が出た事例がある。200万人の人が避難できる所はない状態。まずは、台風が過ぎ去るまで、豪雨が落ち着くまで、余震が収まるまで、その間だけ一時避難をするところを自分自身で決めておいてほしい。避難をするために遠いところに行く途中にケガしたら何にもならないわけで、例えば豪雨であれば“垂直避難”といい、二階に逃げることを決めておく。二階がないとなると、近所の人と助け合ってちょっと高台や、高いアパートなどをお願いするとか、公民館に行くとか、あらかじめ自分で決めておいたり、近所をお願いしておくことをやっていただきたいと思っている。そして台風や豪雨が過ぎ去った後に、もし自宅で生活できなくなった時に、市の指定している避難所に移ってもらう。それが3日以上におよぶと、さすがに学校の体育館での長期滞在は難しくなるので、そうするとやっぱりこういう公共施設を開設して、できるだけ自宅と同じような環境で避難生活を送ってもらう、そういう段階

的なものになる。小郡の場合は 62 の行政区があり、自治公民館があるので、自治公民館はぜひ区長さんと相談しながら“一時避難所”という使い方もお願いしていきたいと思っている。

質問者 H : 7月の豪雨で経験したことを紹介する。義理の姉が 80 歳を超えているが、松崎地区で一人暮らしをしている。私のところへ来るよりも、近所での避難を希望したので、開設していた三井高校北側の公民館に連れて行き泊まった。実際に開設された事例があったので紹介しておく。

質問者 I : 津古区も危ない家屋が 3 軒ほどあったので、公民館を勝手に開けた。ふれあい館三国まで連れていくことはできないので開設した。あと急傾斜地対象の家も 2 戸ある。そこも一戸は公民館に来て、お世話する人も含めて 4 名ほど泊まった。緊急的な一時避難ということで、場所ごとの判断で、一番安全を考えながら臨機応変にやればいいのかと思う。災害後の避難はまた別の話で、とりあえず今起きている危険をしのぐためであれば、遠慮することなく、大いにやればよいと思っている。

・「幼稚園・保育所等幼児施設に関するアンケート」の結果について

質問者 J : アンケートを集計しているが、この結果はわかりきったことではないか。無償化になれば、仕事したい人が増えるのは当たり前のこと。何のためのアンケートなのか。あと三国校区は、公立幼稚園の希望が多いという結果が出ているのに、逆行して三国幼稚園を閉鎖するという結論に出た。去年から市長を交えてずっと論議を行っていたのに、アンケート結果と逆行したことを市がやっている。だから余計に、何のためのアンケートだったのかを聞きたい。

児玉子ども・健康部長 : 傾向の把握というよりは、無償化のあとにどれだけの方のご希望が変わるのかという実数を把握したかった。それで、できるだけ多くの方々からご意見をいただきたいということで就学前のお子さんがいらっしゃるご家庭全戸へのアンケートを実施した。公立幼稚園の統合は、公立幼稚園の入園者数がだんだん減る中で見直しの必要が出たため行うこと。その中で何とか公立幼稚園を残そうということで、三国幼稚園を休園させていただいた上で、今回の統合を実施することになった。そこで、かねてより要望のあった「3 年保育をしてほしい」という声と、「幼稚園が終わった後に預かり保育をしてほしい」という要望に応える形で、3 年保育と預かり保育を実施させていただく決断をした。

質問者 K : アンケートを取り、数を把握した今、今後確実に我々の声が反映させてもらえると思っているのか？

見城副市長： 「アンケートをやる前から結果は分かっていたはず」という声があったが、当然そういうことは危惧していた。ただ、今は 34 名の待機児童を抱え、4 月の時点は 100 名ほど抱えていたのだが、そういう中でさらに増えたら、我々は子育て支援に対してどういう風に向き合い、どういう風な課題を解決するためにやらなければならないかということを見つけださなければならないので、アンケートを実施した。想像はしていたが、およそ 1,000 人の待機児童を抱えている。これを小郡の中で解決しなければならないということは、大変な課題を抱えたと思っている。ただ、「申し訳ありません」と言って解決するわけではない。解決するために、今経営されている私立の幼稚園、保育所の皆さん方には、さらに定員を拡充してもらうために、あるいは施設を増築してもらうために、ご協力をお願いしていかなければならないし、行政側もきちんと向き合ってやっていかなければならない。そうすると三国幼稚園と小郡幼稚園を統合して公立幼稚園のサービスを拡充しなければならないというのも、ひとつの課題であった。その後、公立の責任は何を果たすのかが残るが、今回タウンミーティングでのご意見やアンケート結果を踏まえながら、早急に方向性を出していきたい。市長には 10 月いっぱいを目処に、結論の骨子となる方向性を出してもらうようお願いをしている。

質問者 L： 私たちが三国幼稚園のことで考えないといけないのは、もっと視野を広げ、国、県、市、他の市町村が現状どのように動いているかを知った上で、意見を考えなくてはならないということ。実際は、ほとんどが民間に委託するケースが増えている。福岡市も公立は少ない。市にそれだけの負担を背負わせるのではなく、例えば弱者をどう助けるか、発達障がい者をどう助けるか、そういうことを考え、市にお願いしてほしい。またそういう施設を誘致することも考えて、幼稚園教育をやっていただきたい。

三国幼稚園の件に関しては、私も皆さんと考え方を共にする中で、ちゃんと勉強していきながら、今後どうするか、次に進むことを考えていきたいと、お伝えしたかった。意見ではないが、みなさんで考えていきましょうという話。今後の幼稚園教育に関しては、無償化になった時に市が市民とどう一緒に考えていくか、また私立をどう受け入れるかも考えることが必要になってくると思う。

見城副市長： 発達障がいの話が出たが、一般的には 6.6% の子どもたちが発達に課題を抱えているというデータが出ている。専門機関の皆さん方に話しを聞くと、13.3% が正しいという見方もあった。およそ 10 人に 1 人の割合だ。発達に課題を抱えている子どもたちは、今を生きるために頑張っており、必ず向き合っていかなければならないと思っている。専門的な対応が必要というご意見はごもっとも。しっかり考えていきたいと思っている。そういうようなご意見をいただきながら、アンケート結果、専門家のご意見など、いろいろな資料を市長に渡しているところであり、先ほどお伝えした通り、10 月末くらいまでには市長に決断していただきたいと思っている。それをまた市民の皆さんにご説明し、また意見をいただいて、きちんとした対応で取り組んでいきたい。

質問者M： 娘が待機児童で、半年間待っていた。娘の仕事は保育士だが、保育士の仕事をしたいのに自分の娘を預けられなくて半年間待っていた。私立の保育園から市の方に向けあっていただき、勤務先となった保育園に孫も預けて働き始めたが、2人目が出来た時に、何か月間で戻らなければならないという縛りがあり、2人目は私立で0歳児から預けざるをえなかった。公立でも0歳児が預かれるということだが、そういうところが増えてくることを願っている。

見城副市長： アンケート結果を見ても、現在の待機児童もほぼ0～2歳児だった。これは重要課題として考えていかなければならない。

ひとつだけ説明しておきたいのが、待機児童の順番があるが、私立に直接頼めば市に掛け合うことができるということは絶対ないので申し上げておきたい。いわゆる子育ての厳しい環境であるかは、ポイント制にして順をつけている。アンケートにもあったが、本当は短時間のパートでもいいのだが、ポイントを入れるためにフルタイムで働いているというケースがある。これが無償化になるのだったら、パートはいいとなる。あくまでも優先順位は、子育てに厳しい家庭から入ってもらうということなので、その辺はご理解いただきたい。

また、公立保育所は国の基準に従い、0～2歳児でもきちんとお預かりをしている。ただ、0～2歳児のご要望が一番多く、これから1,000人の待機児童が出るとなれば、いくら保育所の定員を上げて施設の増築をしても、すべての受け入れはなかなか難しいだろうと思っている。ここをどういう風に乗り切るか、いろいろな方法はあると思うのでしっかり知恵と工夫を出しながら対応を行っていききたい。

質問者N： 三国幼稚園の創立当初から、長い間勤めていた。私は0歳児から、公立の公的な保育を保証していただきたいと思っている。子どもたちの教育をしながら、親の教育、保護者の教育もとても今は大事な時期にある。子育てを支援していくためには、園の中だけではなく、地域の意識とか、保護者の啓発とか、いろんなことが大事になってくる。小郡市でもなされているとは思いますが、やっぱり公立幼稚園や保育所の中で、保護者とどういう風に「つながる」保育や教育をしていくかを、考えていただきたい。そして、子どもたちが0歳から豊かに育つ環境も大事にしてほしい。今は保育所数が足りないとかで、国の政策で規制緩和がされていて、遊び場が狭かったり、窓もないようなお部屋でも保育所として使えると言われている。やっぱり子どもたちには、のびのびと土や太陽や水に触れて、いろんな感性を豊かにして育ててほしい。今から小郡市を担う子どもたちのために、そういう環境作りにたっぷり予算を使ってもらえれば、豊かな小郡市ができていくと思う。子どもたちを預けている保護者への働き方も含めて、担い手を作ってってもらいたい。小郡市では豊かな教育が実践されてきており、幼児教育がいかに大事かということは立証していると思う。そういう意味では、子どもたちの豊かな暮らしを大切にもらうことが、「つながるまち小郡」になっていくのではないかと。

副市長： 今のご意見は承っておきたいが、0歳から小学校に上がるまで、公立ですべて行うという考え方はもっていない。それははっきりと申し上げておきたい。今私立で受け持っている数に合わせて、対応できる公立に変えていこうとすると、とんでもない時間がかかる。その間、待機児童をずっと待たせることになるので、できない。それから私立の幼稚園や保育所も、しっかり頑張っておられる。“私立は窓がない”、“運動場でしっかり遊べていない”ということは、決してない。きちんと幼児保育をやっておられるので、そこは皆さんに申し上げておきたい。もしそれが違うということであれば、我々がきちんと指導しながらやっていく。それが行政の務めだろうと思っている。また、6歳までにしっかり生きる力を身につけて、小郡の将来を担う子どもたちを育てようという姿勢は大賛成である。そこに向かって、一生懸命やっていきたい。